

(様式1)

令和7年度 学力向上を図るための全体計画（全体）

学校名	墨田区立吾嬬立花中学校
校長名	河野 敏也

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・1年国語（+0.8）・2年国語（+2.3）・3年国語（+1.5）・1年数学（+4.6）・2年数学（+0.8）・1年英語（+3.3）・2年英語（+5.1）の3科において全国平均正答率を上回った。 ・思考・判断・表現の観点で1年国語（+2.9）・2年国語（+3.9）・3年国語（+1.0）・1年数学（+5.8）・1年英語（+3.0）・2年英語（+8.5）の3科において全国平均正答率を上回った。 ・活用問題で1年国語（+2.5）・2年国語（+3.9）・1年数学（+2.4）・1年英語（+5.4）・2年英語（+11.0）の3科で全国平均正答率を上回った。 ・基礎問題において国語（+2.0）で全国平均正答率を上回った。	・1年社会（-1.5）・2年社会（-4.3）・3年社会（-2.0）・1年理科（-4.3）・2年理科（-5.5）・3年理科（-5.2）・3年数学（-0.9）・3年英語（-1.4）の4科で全国平均正答率を下回った。 ・1年社会の領域「世界の中の日本の役割」が弱く、記述の解答に課題がある。2年社会の地理では（-6.8）・歴史（-3.4）、3年社会基礎問題（-2.0）で全国平均正答率を下回った。 ・1年理科の領域「物質・エネルギー」「生命・地球」が弱く、基礎・活用の問題共に課題がある。2年理科「エネルギー」（-10.4）・「生命」（-8.3）・地球（-7.3）で全国平均を下回った。 ・DE層の率が1年理科で57.5％・2年理科で57.7％・3年理科で55.7％・1年社会で46.8％・3年社会で51.2％・3年英語で49.3％・3年数学で47.4％と基礎・基本の定着に課題がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「あなたの気持ちを分かろうとしてくれる先生がいますか」の肯定率が1年（+3.6）・2年（+3.9）全国を上回っている。 ・「自分にはいいところがあると思いますか」の自己肯定率が1年（+6.5）・2年（+3.1）・3年（+9.2）全国を上回っている。 ・「思いやりをもってよく考えて行動する」の肯定率が1年（+5.7）・2年（+5.6）・3年（+5.1）全国を上回っている。 ・「授業で友達と教え合う時間がありますか」の肯定率が1年（+2.0）全国を上回っている。 ・「授業でグループで話し合ったり討論したりすることがありますか」の肯定率が1年（+2.9）・2年（+3.3）・3年（+0.4）全国を上回っている。	・「話し合いの時、自分の意見を積極的に発言していますか」肯定率が1年（-2.4）・2年（-7.4）・3年（-8.6）全国を下回っている。 ・「土日祝日等、学校が休みの日にどれくらい勉強しますか」の項目の全くしない率が1年（+11.0）・2年（+10.1）・3年（+1.9）全国を上回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・到達度テストで都標準で良かったのは1年数学・英語、2年国語・数学・英語、3年国語と理科である。 ・1年領域別で60%以上の平均得点は、国語「漢字の読み書き」「言葉の知識」「文の組み立て」「表現」数学「分数と計算」「正の数・負の数の計算」英語「リスニング」「アルファベットと符号」社会「文明のおこり」理科「花のつくり」「ものの燃え方と空気」・2年領域別で50%以上の平均得点は、国語「文法」「表現」数学「数・式の計算」英語「リスニング」社会「自然から見た日本」「全国統一」理科「火山と火成岩」「気体の性質」「水溶液の性質」「酸化銀の分解」・3年領域別で60%以上の平均得点は、国語「漢字」「文学的文章の読解」数学「小問集合」	・1年到達度テストにおいて領域別で45%以下の平均得点であったのは国語「文学的文章の読解」「説明文の読解」数学「立体と体積」英語「場面に応じた表現」社会「工業生産、貿易・交通」「くらしと政治」「前近代の歴史」理科「物質の性質」 ・2年到達度テストにおいて領域別で35%以下の平均得点であったのは数学「比例・反比例」 ・3年到達度テストにおいて領域別で35%以下の平均得点であったのは 国語「作文」数学「一次関数」「平面図形」「空間図形」 英語「英作文」「長文読解」 社会「歴史総合」「総合問題」 理科「光の性質」

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 校内研修テーマ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、学力の定着と向上に繋げる。

- ・校内研修で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について研鑽を深め、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。「個別最適な学び」の「指導の個別化」では、生徒の選択幅を持たせた指導を行い、「学習の個性化」では生徒の興味・関心を発揮できるような課題を掲示して、身に付けた知識・技能を活用させる。また、「協働的な学び」で話し合い・教え合い活動を促進し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

(2) インプットとアウトプットのバランスのとれた授業展開を行う。

- ・「ミライシード」「ふりかえりシート」「問題データベース」を活用して、繰り返し問題に取り組ませる（インプット）を通して、知識の定着を図る。さらにこれらの発展問題等の問題演習を通して、話し合わせる、説明させる、発表させるのアウトプットの充実を図る。知識を活用させる時間を授業に取り入れていく。

(3) 学習へ向かう動機付けを行い、家庭学習の習慣化を図る。

- ・ミライシードを活用し、学校全体で毎日課題を配信して、家庭学習に取り組ませる。
- ・家庭学習で取り組ませた課題を、短いサイクルの単元テストや小テストに取り入れ、「分かる・できる」の達成感を体験させる。
- ・進路指導部を中心に定期考査前に質問教室を計画し、分からないことはすぐ質問する環境を醸成する。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・個別最適な学びを促進し、全教科DE層を4割以下にすると共に、B層の割合を1割増やす。
- ・区学習状況調査において、全観点の平均正答率で全国との差が－5ポイントの教科をなくす。
- ・授業でアウトプットの取組を意識し、話し合わせる・説明させる・発表させる活動を促進する。
- ・振り返り学習を重視して、同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。